

NRA NEWS No.10

1 リニア・鉄道館の展示説明板に協力

2011年3月14日、JR東海の「リニア・鉄道館」がオープンしました。その車両コーナーに展示されている39両には、それぞれ写真入りの説明板があります。NRAでは、この説明板に使用する写真(C57、ED11、ED18、EF58、クハ381、キハ181の6車種計9点)を提供しました。いずれも各車両の現役時代に撮られた貴重な写真です。同館に行かれた際には、説明板を是非ご覧下さい。また、同館の公式ガイドブックにも写真を提供していますので、合わせてご覧ください。



C57139と説明板



2 丸栄の模型展に出展

名古屋栄にあるデパートの一つ「丸栄」では、毎年ゴールデン・ウィークに鉄道模型展を開催しています。

今年で第8回目という歴史のある催しで、鉄道模型メーカー各社が出店して新製品をPRするほか、HO、N両ゲージの大レイアウトが設置され、新幹線や地元名鉄の車両が走り回っていました。

この会場の一角に名古屋レール・アーカイブスのコーナー「名鉄特急歴代写真展」が設けられました。デパートの催事担当者から出展の依頼があり、NRAの活動PRの一環としてふさわしいと考え、受け入れたものです。

人気のパノラマカーをはじめ戦前の名車モ3400系、昭和30年代に登場した5000、5200、5500系や国鉄高山本線に乗り入れた8000、8500系そして空港特急ミュースカイまで16点の写真パネルが展示されました。有料会場にも関わらず、大勢の鉄道ファンはもちろん子供たちについて来た親や祖父母たちも熱心に、そして懐かしそうに眺めていました。



3 守山区生涯学習センターの講座に協力

5月から6月にかけて計7回にわたり、名古屋市の守山生涯学習センターで「鉄道の楽しみ」講座を担当しました。各回のテーマと担当者は下表のとおりです。受講者は40代から80代の男女25名でした。センターの担当者からは、「初めての企画としては大変好評であった」といわれ、アンケートでも「もっと回数があってもよかった」、「鉄道趣味者の思いが分かった」など好意的なものが多かった、ということでした。NRAとしても鉄道知識の普及という活動にそったものと考え、今後もこうした依頼があれば協力していきたいと思えます。

回	月・日	曜	タイトル(テーマ)	担当会員
1	5・14	土	“瀬戸電”とその歴史～ご当地路線再発見！～	伊東重光
2	5・20	金	JRリニア鉄道館見学～スピード命！エコ命！～	「現地見学」
3	5・28	土	駅弁、カメラ、時刻表～“鉄”の楽しみ、てんこ盛り～	市岡・稲見
4	6・5	日	三岐鉄道を楽しむ～地域に根ざす鉄道文化～	「現地学習」
5	6・11	土	鉄道模型の世界～マニアックワールドへのいざない～	安藤・市岡・堀
6	6・18	土	鉄道技術の奥深さ～古くて新しいエコ・トラフィック～	藤井 建
7	6・26	日	SLのメカにふれてみる～みんなに愛されるD51792～	「現地学習」



第1回 講座風景

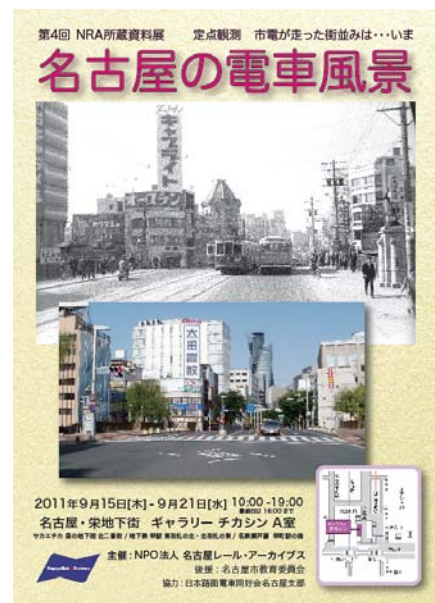


第5回 講座風景

4 第4回展示会の開催

今秋も9月15日(木)～21日(水)の1週間、昨年と同じ名古屋栄のギャラリー・チカシンにおいて第4回写真展「名古屋の電車風景ー市電が走った街並みは…いまー」を開催します。名古屋市電が走っていた同じ場所が半世紀近くを経た現在どう変貌を遂げているか定点撮影で紹介します。

NRAの作業日、打ち合わせ会は、毎月第1・第3土曜日の午前10時からです。
時間がありましたら、ぜひご参加ください。



白井 昭の一口メモ

1 名鉄の東西直通

昭和23年、名鉄の東西直通が成り、3400形が初めて岐阜に入った。電車は故障車が多かった。H L木造車は故障しなかった。

その前、昭和21年頃より私と梶山満、伊藤（礼）氏で轍美会を発足、23年5月の会誌で名鉄直通記念として表紙のガリ版は私が描いた。

2 昭和24年、名鉄の改番

合併で当時、同番の生じた名鉄は改番整理し、初番を0に改めた。

N電はモ90形（90～94）に改番された。竹鼻デ5形のうち2両は松電へ譲渡、他はモ80形（80・81）になった。のち80は小牧車庫の倉庫に（茶色、80のまま）。揖斐線の大形単車モ50～80形はモ100、110、120、130形に、大半はE E制御と電磁ブレーキ付き。モ100形は売却の残りをモ160形としてE E制御、SMEブレーキに換装。

渥美線モ90形はモ140～142、うち2両はMM固定で走った。

3 昭和25年、名鉄の新技术解説会

昭和25年後半、名鉄車両部は鉄道ファンを集め、新技术の動向を解説、新車3850形の説明を行った。鳴海の下郷邸に下郷、小島、倉知氏など十余名を集め、理想としてはNYのR10系を目指し、電空ブレーキ、バネ上駆動を目指す、国産技術では出来なため3850形は不完全な電空併用、全クロスで作り、将来は高性能化を目指した。

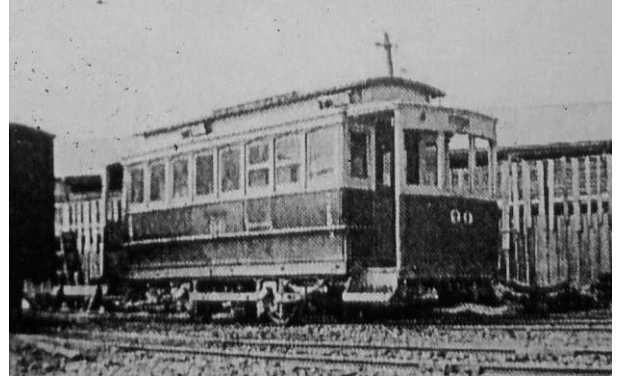
この会合は、電鉄技術史上画期的なことであった。日本で新技术が普及したのは、昭和30年代であった。この会で電車の番号板の書体をロマンゴールドに戻すように提案、これは今に至るまで続いている。

4 昭和25年、名古屋にPCC出現

昭和25年6月、桜山～大曾根にPCC制御（東芝）のトロバス（トレーラーと単車）が入った。日本初のPCC制御の車両である。

高性能なのに電鉄人の関心は低く、価値の理解出来ない人も多く、PCC制御は日本に定着しなかった。私はよく利用したが、本当に胸のすく高加速であった。

5 名古屋地区のN電



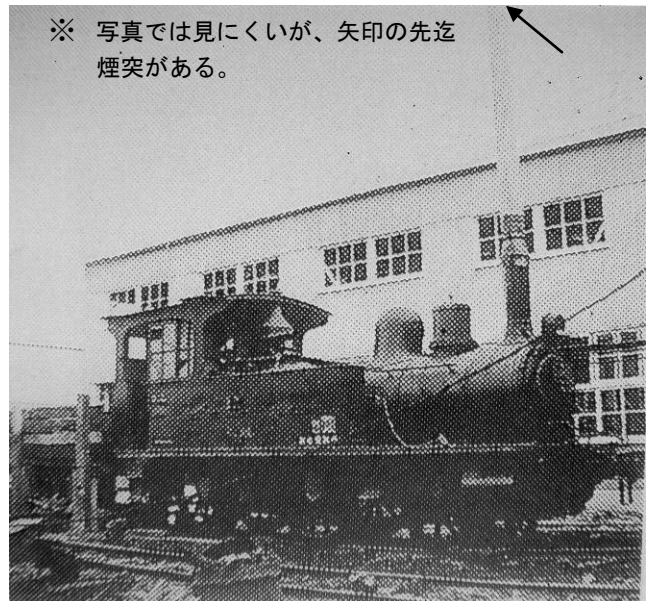
▲ 昭和29年4月、鳴海の90号

戦前も岩村などに入っていたが、昭和18年に15両が名市電西町に送られ、組み立て後、昭和19年4月から8両が運転開始した。私は早速、鶴舞～桜山に乗ったが、小形・低速のため、いつもダンゴ運転で込み合った。

昭和21年、連接車2700形11両の入線により、82・90・91・98・104の5両が岡崎へ、旧番のまま使われたが、昭和24年の改番で90～94になった。

起線廃止、40形の岡崎入りで、N電は昭和29年3月頃廃車、うち3両は挙母より鳴海に回送し、番号はそのまま工場のハウス（詰所）、倉庫とした。

※ 写真では見にくい、矢印の先迄煙突がある。



▲ 長い煙突の12号、後は新造の建屋 昭和28年（記事は次頁）

6 据え置きボイラの12号SL

鳴海工場では昭和29年よりタクトシステムの近代化を目指して昭和28年に台車用のソーダバスを作り、そのボイラ代用として12号を置いた。(写真:前頁)それにより一宮の入換は、12号から709に変わった。のち鳴海の新製ボイラが完成し、12号は昭和29年2月2日、岩倉に送られた。昭和28年中、N電3両と12号SLは並んで見られた。

7 1500V電気風呂

鳴海の工員用大風呂は、戦後から昭和28年まで電車の抵抗を使いDC1500Vで湯を沸かした。私も感電したことがあるが、感電の死者はなかった。

8 高性能電車への歩み

戦後長らく続いたC55などの豊橋快速にモハ80が入る計画が伝えられ、名鉄は高速電車の開発に必死だった。

昭和29年7月に、1本だけ作られたモ3950形

(3954)1編成は5000系への試作で、初めての本格電空併用、ARDブレーキを採用、私もLO方式の連動を実体験したのは、これが初めてだった。

運転台に赤、白、緑の制御表示灯を設け、LOを緑としたのもこれが初めてで、名鉄独自のシステムとして永く続いた。

9 写真集を発行

昭和28年1月、私は『電車が語る名古屋鉄道50年史』を発刊した。モ600形の写真は、昔のEE社のブローシュ(パンフレット)の写真を用いた。私鉄として早い企画で、今も参考になる。



▲ 昭和28年の写真集

10 5000系高速電車の完成

昭和30年末、懸案の高性能、125km/hの高速電車5000系が完成。制御制動のWH原設計を少々変えたところブレーキ不緩解による火花で沿線火災が発生。このため営業開始が予定より1ヶ月遅れた。

※1 大同のミニSLは誤り

『知多半島の名鉄90年』p.200に、戦中、大同製鋼工場内のミニSLとあるのは、バッテリーロコ(釣掛)の誤り。原因は私のミスによる。

※2 井川線開通年の誤り

井川～市代付近の開通年につき、昭和8年と10年の2説あるが、昭和10年が正しい。

電力系の資料は正しく、官庁系にミスあり。孫引きも出ているので要注意。

この地区のガソリン機関車軌道の最初は、昭和7年の沢間～今の寸又(大間)で、昭和8年に寸又～千頭ダムが開通し、昭和8～10年の千頭ダム建設資材輸送は、藤枝～沢間は川根索道、沢間～寸又～千頭ダムはガソリン軌道と臨時索道の並列で輸送し、軌道はのちに千頭森林鉄道の一部となった。

入会・退会、寄付・寄贈

入会 岩田浩行氏(名古屋市在住)

退会 丹羽 満氏・戸苺 恭紀氏

現在の会員数 30名

寄贈の報告(2011年1月～6月)

浅野伸一氏(非会員)書籍・雑誌

遠藤秀樹氏(非会員)写真アルバム・雑誌

高橋敬子氏(非会員)熱田電軌の資料

西口幸一氏(非会員)写真・書籍・雑誌

厚くお礼申しあげます。

NRA NEWS No.10 2011.8.6

編集及び発行

NPO法人名古屋レール・アーカイブス

〒453-0012 名古屋市中村区井深町1番1号

新名古屋センタービル 本陣街 B1224号